１１月の園だより

令和４年１１月１日

学校法人志賀学園
松の実こども園

　柿の実が赤く熟し、秋の深まりを感じるようになりました。
園内は、子どもたちが描いた絵や世界のお話をテーマに作った作品が展示されていて「芸術の秋」そのものです。０・１・２歳児は日本のお話ということで、桃太郎や浦島太郎、さるかに合戦など日本の昔話のお制作に取り組みました。ドットマーカーや指スタンプで色を付けたり、折り紙をちぎったりビリビリ裂いたり年齢に応じた活動を楽しみました。３歳児はてぶくろのお話のエプロンシアターに大変興味を示したので、好きな色を組み合わせて手袋を作ったり、ハサミの使い方を覚えてきたので折り紙で氷の結晶に挑戦したり、表情豊かな雪だるま作りをしました。４歳児は白雪姫の物語から、一人ひとり帽子をかぶった小人を作り、色画用紙で立体的に作ったりんごを天井から吊るしました。５歳児は大好きなジャックと豆の木のお話に親しんで、４つのグループに分かれ、ジャックの家・物（お鍋や金の竪琴など）・大男・お城の共同制作に取り組みました。それから物語についての会話が弾み、時間をかけて制作活動を楽しむことができました。今年のさくら組さんは、グループの仲間に自分の思いを伝え、お互いの意見を尊重しながら想像をふくらませ、楽しく制作活動に取り組んでいました。思うように作れなかったときには、友だち同士でアドバイスしたり、アイディアを出し合い、試行錯誤しながら仲間と共に作り上げることができました。
　さて先日、１０月の園だよりでもお知らせしましたが、「ふる里の気」代表の箱﨑様から稲の脱穀作業を教えていただき、さくら組で体験しました。昔ながらのギザギザの刃が付いた脱穀機に稲を通してお米をすきました。刃と刃のすき間からお米が飛び散る様子に歓声をあげていました。箱﨑様から「学校へ行ったら習うと思いますが、米という字は、八、十、八と書きます。」と教えていただきました。お米ができるまでは、冬の間眠って硬くなった田んぼの土を掘り起こし空気を混ぜ合わせ、柔らかい土にするところから収穫まで、農家の方々により３６５日、８８回もの手間をかけ丹精込めて作られるということです。それを考えますと、私たちは食べ物を粗末にはできませんね。子どもたちは、記念に自分で脱穀したお米と一人１本ずつ稲を持ち帰りました。
次の日は、さつまいも掘りに出かけ、大小様々なおいもを掘ってきました。さつまいものつたを持ち帰り、箱﨑様よりリースの作り方も教えて頂きました。後日、リースに収穫した稲やお花を装飾してお正月飾りを作り、各ご家庭で飾っていただく予定です。このように、子どもたちは地域の方々のおかげで、日本の伝統的な行事を体験しながら、志賀学園の建学の精神であります、「感性の豊かな日本の心を持った真の国際人の育成」につながっております。箱﨑様とお手伝いいただきました猪瀬様ありがとうございました。